

# がん情報サロンボード

2018/09/12

がん情報サロン 富田 明人

## がん征圧月間について

### がんゲノム医療という新しい時代へ!!

平成時代最後の夏は誠に厳しく波乱万丈となりました。迷走台風に続き関西に上陸した21号は関空の機能をマヒさせ今後の経済活動に大きな影響をもたらさそうです。6日未明には北海道で震度7の大地震の発生し北海道全域の停電は日頃電気に頼っている社会に大きな警告を与えました。天災に対する対応をもう一度見直す機会としたいと思いますね。

9月はがん征圧月間です。毎年行事や市民講座が開催されます。今年も出雲市で開催された市民公開講座に出かけました。毎年のことですが天気は悪く今年も雨で折角の催事でしたが入場者は少なかった。

講演は「大腸癌なんてこわくないー早期発見・早期治療で解決をー」でがん治療は早い時期に見つけて治療することが必要で、がん検診の必要性を強調した講演でした。

少し視点を変えた話題として「アピアランスケア（外見ケア）について」、がん患者の術後、抗がん剤の副作用についての対処について、対応の相談窓口等の説明が行なわれました。

特に興味を持った演題は「がん遺伝子パネル検査を用いたがんプレジジョンメデシンの実際」でした。

国は第3期がん対策推進基本計画でのがん医療の充実として、がんゲノム医療の推進を策定しました。

がんはさまざまな遺伝子の異常が積み重なることで発症し、その遺伝子の異常は患者ごとに異なることが近年の研究により判ってきました。

網羅的がん遺伝子解析「プレジション検査」は、複数の遺伝子の変化を調べる解析技術で、患者により適した治療薬、治療方針等の情報を提供する新しい治療です。

厚生労働省は4月にこの医療を推進するためにがんゲノム医療中核拠点病院11カ所、がんゲノム医療連携病院100カ所を指定し、島根大学医学部附属病院は連携病院に指定され、中核病院の慶應義塾大学病院、岡山大学病院、九州大学病院と連携してがんゲノム医療に取り組むこととなりました。

なお、山陰地区では鳥取大学医学部附属病院、鳥取県立中央病院が指定されています。

がん遺伝検査で分かる情報は患者にとって極めて有用なことです。主な情報は

- ① がんの性格が分かります。遺伝子の異常が明らかとなり、治療方針が確定する。
  - ② 国内の承認済みあるいは臨床試験中の治療薬の情報が得られる。
  - ③ 海外で承認済み、臨床試験の治療薬の情報が得られます。
- 等です。

がん遺伝子検査で従来のがん種別治療から個人の遺伝子の異常による治療に進展すると考えられていますが、さまざまな課題も生じています。社会、経済、地域の格差等の解消が必要ではないでしょうか、特にこのような先進医療は保険の適用が無いのが多く高額な負担が発生する事等です。

がんゲノム医療は新たな治療薬の発見に期待が寄せられています。患者により適した治療薬の情報が提供され、遺伝子レベルで自身のがんを知ることは、患者にとって治療方針や治療薬の選択に役立ち有用です。今後は島根大学を拠点として地域のがん診療連携拠点病院等と協同してこの地域のがん医療の水準の向上が期待されます。

このような情報は医療関係者のみならず患者、市民の協力と認知が重要であり最新の情報を周知することが肝要であります。今後の広報活動の強化を望みたい。

(富田)